

## 1 産地の概要

<対象地域> 匝瑳市春海・椿海・豊和地区

<対象品目> 水稻

<産地の現状・課題>

- ・春海(水田122.5ha)・椿海(水田132.1ha)・豊和(水田165.9ha)地区の水田は、基盤整備事業により50a~100a規模に整備された。
- ・将来の担い手(個人21名、農事組合法人3法人(各地区延べ人数))への農地集積が進められており、これら担い手の経営面積が増加している。
- ・経営面積の増加に対応しつつ水稻の収量・品質を維持するため、ドローン等のスマート農業技術を活用し、防除作業(いもち病・紋枯病)や追肥作業の省力化が求められている。

## 2 検討体制

<匝瑳市春海・椿海・豊和地区水稻技術協議会構成員と役割>

- ・農業者(役割:技術の検証、新たな営農技術体系の検討)
- ・匝瑳市産業振興課(役割:事業の実施に係る事務支援)
- ・海匝農業事務所(役割:現地調査、全体のコーディネート)



現地検討会の様子

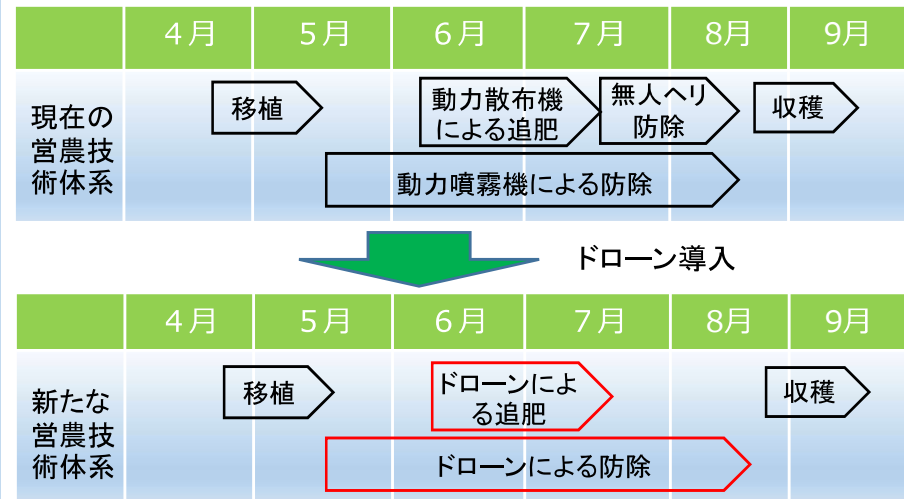


ドローンによる液剤散布の検討

## 3 新たな営農技術体系への転換

<目指す産地像>

地域の水田を担う中核的な担い手のうち数戸がドローンによる作業受託を行うことで、地域内の防除・追肥作業が省力化される産地



<新たな営農技術体系の効果(検証結果)>

- ・防除における液剤散布  
【現状】動力噴霧機6分/10a → ドローン0.8分/10a **約9割↓**
- ・追肥 【現状】動力散布機8分/10a → ドローン2.5分/10a **約7割↓**

<新たな営農技術体系の今後の取組内容>

